**性能評価申請図書**

(飛び火性能評価)

**申請する内容は以下のとおりです。この申請図書及びこの申請に関連して提出する資料の記載事項は、事実に相違ありません。**

1. **会社概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 会社名 | ○×株式会社 |
| 所在地 | 〒103-0000　東京都中央区日本橋○○町＊―＊―＊＊　△△ビル＊階 |
| 電話番号 | 03-\*\*\*\*-\*\*\*\* |
| 代表者名 | ○×　太郎 |

**(2)対象認定コード**

申請の構造が、飛び火の例示仕様の告示に該当しないことを、建築主事等にご確認下さい（告示は巻末に掲載）。

・62条 ■ DR(燃えぬけ確認あり)

 □ DW(不燃性物品の保管庫等)

・22条 □ UR(燃えぬけ確認あり)

 □ UW(不燃性物品の保管庫等)

表2の構成材料を表面側から順に列記し、どのような屋根構造か判るように明記してください。

**(3)構造名**

〇〇〇防水材・〇〇〇混入セメント板・〇〇〇フォーム板・合板表張／木製下地屋根

**(4) 仕様範囲の説明資料(性能評価試験を行う試験体の仕様と構造の仕様の比較)、**

**構造説明図、施工方法の仕様書**

「別紙」のとおり。

**(5)その他**

・試験体の割付図

・構成材料の塗布量の算出資料

（試験体製作場所で塗装・吹付作業等を行う場合）

・大臣認定書写し

(評価対象に大臣認定品が含まれる場合)

・その他、必要とする資料

(事前相談において担当者から要望があった場合)

※これにより取得した個人情報は、性能評価事業の実施並びに性能評価、試験、システム審査、標準化、調査研究の事業に関する情報をお知らせするために使用し、第三者への開示を行わないなど個人情報保護法に則った適正な管理を行ってまいります。 v190115

別　紙

記載例

1.仕様の選定：

屋根仕上げの違いを示す内容としてください。

例：シート防水材、塗膜防水材、太陽電池パネル

　試験体の選定を表1～表3に示す。

表1　仕様・試験体の形状・寸法等

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | 仕　様 | 試 験 体 | － |
| 形状 | 〇〇〇防水材葺き形状 | 同左 | － |
| 支持部材の間隔 | ○○mm以下 | ○○mm | － |
| 支持部材の傾斜角度 | 0°以上30°以下 | 15° | － |

適用する角度に応じて、次のように記載してください。

申請仕様　　　　試験体

0°　　　　　　　0°

0°～30°　　　　15°

30°～70°　　　 30°

試験体の諸元を記載してください。数値は全て基準値(範囲を持たない数値)で記載してください（詳細は末尾の「注意点」を参照してください。

項目ごとに番号を振ってください（番号の重複がなければ可）

表2　仕様・試験体の主構成材料

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項　目選定した試験体の製品名、製造会社名等ありましたらご記入下さい。※性能評価書・大臣認定書には反映されません。 | 仕　様 | 試 験 体 | 製造元/購入先/証明方法 |
| (1) | 葺材(○○○防水材) | 厚さ：○○(±●●)～○○(±●●)mm質量：○○(±●●)～○○(±●●)kg/m2有機質量：○○(±●●)～○○(±●●)kg/m2有機質量に範囲がある仕様は、有機質量を記載してください。構成：①～③①○○○樹脂系塗料：厚さ：○○(±●●)mm以下　固形量：○○(±●●)g/m2以下　組成(質量％)： ○○○系樹脂　　○○(±●●) ○○○○○　　　○○(±●●)有機質系添加剤(○○等)　　　　○○(±●●)無機質系顔料・添加剤(○○等) 　　　○○(±●●)②○○○防水層：　厚さ：○○(±●●)～○○(±●●)mm固形量：○○(±●●)～○○(±●●)kg/m2　材料：1)及び2)1)〇〇〇系樹脂固形量：○○(±●●)～○○(±●●)kg/m2組成(質量％)：　○○○系樹脂　○○(±●●) 　　○○○○○　　○○(±●●)2)ガラス繊維マット(JIS R 3411、EM000～EM000)質量：○○(±●●)～○○(±●●)kg/m2③○○○樹脂系フィルム：厚さ：○○(±●●)mm　質量：○○(±●●)g/m2　組成(質量％)： ○○○系樹脂　　○○(±●●) ○○○○○　　　○○(±●●) | 厚さ：○○mm質量：○○kg/m2有機質量：：○○kg/m2構成：①～③①○○○樹脂系塗料：厚さ：○○mm　固形量：○○g/m2　組成(質量％)： ○○○系樹脂　　　○○ ○○○○○　　　　○○有機質系添加剤(○○等)　　　　　○○無機質系顔料・添加剤(○○等) 　　　　○○②○○○防水層：　厚さ：○○mm固形量：○○kg/m2　材料：1)及び2)1)〇〇〇系樹脂固形量：○○kg/m2組成(質量％)：　○○○系樹脂　　○○○○○○○　　　○○ 2)ガラス繊維マット(同左、EM000～EM000)質量：○○kg/m２③○○○樹脂系フィルム：厚さ：○○mm　質量：○○g/m2　組成(質量％)： ○○○系樹脂　　　○○ ○○○○○　　　　○○ | ①自社品/申請者にて納入/配合証明書②1)市販品/申請者にて調達/発注書・納品書②2)市販品/申請者にて調達/発注書・納品書③市販品/申請者にて調達/発注書・納品書 |

つづく

つづき

試験体に用いる材料について、

製造元：市販品、自社製、○○社製、、、等

購入先：試験体製作メーカにて購入、申請者にて市販品購入、申請者にて製造元より購入、、、。など

証明書方法：材料に印字、製造証明書、ミルシート、当日配合を確認、、、等

を記載してください。

表が2ページにまたがる場合は“つづく”と記入してください。

表が2ページにまたがる場合は“つづき”と記入してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| (2) | 下張材 | 仕様：(1)又は(2) |  |  |
|  |  | (1)木質系ボード | 材料：①又は②　①普通合板(JAS)　②構造用合板(JAS)厚さ：○○mm以上 | 材料：①　①普通合板(JAS)厚さ：○○mm | ○○/○○/○○ |
|  |  | (2)セメント板 | 材料：木質系セメント板厚さ：○○(±●●)～○○(±●●)mm質量：○○(±●●)～○○(±●●)kg/m2組成(質量％)：　普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ(JIS R 5210)　○○　スラグ 　　 ○○　〇〇〇〇材　　　　　　　　　○○ パルプ 　 　　○○　〇〇〇繊維　　　　　　　　　○○　(国土交通大臣認定不燃材料：NM-0000) | －面材は、件名による認定書別添の分割対象になります。面材の種類ごとに書き分けて下さい。 |  |
| (3) | ○○フォーム板 | 〇〇フォーム保温板(JIS A 9521、○類)：厚さ：○○(±●●)～○○(±●●)mm質量：○○(±●●)～○○(±●●)kg/m2密度：○○(±●●)～○○(±●●)kg/m3イソシアネート指数：組成(質量％)：ウレタン、イソシアヌレートフォームの場合は、日本ウレタン工業協会が制定した様式に沿った仕様特定が必要になります。　＊＊＊＊ 〇〇％　＊＊＊＊ 〇〇％　＊＊＊＊ 〇〇％ | 同左(同左)：厚さ：○○mm質量：○○kg/m2密度：○○kg/m3 | ○○/○○/○○ |
| (4) | 野地板 | 仕様：支持部材が木製又は鋼製の場合(1)又は(2)支持部材が金属折板製の場合(1)～(3)の一支持部材がコンクリート製の場合(3) | 仕様：(1) | － |
|  |  | (1)木質系ボード | 材料：①～④の一　①普通合板(JAS)　②構造用合板(JAS)③コンクリート用型枠合板(JAS)　④素地パーティクルボード(JIS A 5908)厚さ：○○mm以上 | 材料：①　①普通合板(JAS)厚さ：○○mm | ○○/○○/○○ |
|  |  | (2)セメント系ボード | 材料：木質系セメント板(JIS A 5404)厚さ：○○㎜以上 | － |  |
|  |  | (3)なし | 野地板なし | － |  |

つづく

つづき

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| (5) | 支持部材 | 仕様：(1)～(4)の一 | － | － |
|  |  | (1)木製下地 | 材料：①又は②①一般製材②構造用製材寸法：幅○○mm×高さ○○mm以上間隔：○○mm以下 | 材料：①①一般製材（すぎ）寸法：幅○○mm×高さ○○mm間隔：○○mm | ○○/○○/○○ |
|  |  | (2)鋼製下地 | 材料：①又は②①＊＊＊＊②＊＊＊＊寸法：幅○○mm×高さ○○mm以上間隔：○○mm以下 | － |  |
|  |  | (3)金属折板製 | 材料：デッキプレート(JIS G 3352)厚さ：○○mm以上寸法：○○(±●●)～○○(±●●)mm | － |  |
|  |  | (4)コンクリート製 | 材料：＊＊＊＊厚さ：＊＊＊＊ | － |  |

表3　仕様及び試験体の副構成材料

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項　目 | 仕　様 | 試 験 体 | 製造元/購入先/証明方法 |
| (6) | 留付材 | 仕様：①～③①○○板固定用材料：ねじ寸法：φ○○×○○mm以上留付間隔：○○○mm以下②○○フォーム板固定用材料：ねじ寸法：φ○○×○○mm以上留付間隔：○○○mm以下③野地板固定用材料：1)又は2)1)くぎ寸法：φ○○×○○mm以上2)ねじ寸法：φ○○×○○mm以上留付間隔：○○○mm以下①～③の材質：a)又はb)a)鋼製b)ステンレス鋼製 | 仕様：①～③①○○板固定用材料：ねじ寸法：φ○○×○○mm留付間隔：○○○mm②○○フォーム板固定用材料：ねじ寸法：φ○○×○○mm留付間隔：○○○mm③野地板固定用材料：1)又は2)1)くぎ寸法：φ○○×○○mm2)ねじ寸法：φ○○×○○mm留付間隔：○○○mm①～③の材質：a)a)鋼製 | ①○○/○○/○○②○○/○○/○○③○○/○○/○○ |
| (7) | シール材 | ○○系樹脂：固形量：○○(±●●)g/m以下 | ○○系樹脂：固形量：○○g/m  | ○○/○○/○○ |
| (8) | 目地用テープ | ○○系テープ：厚さ：○○mm、幅：○○mm、質量：○○～○○kg/m2 | ○○系テープ：厚さ：○○mm、幅：○○mm、質量：○○kg/m2 | ○○/○○/○○ |

つづく

つづき

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| (9) | ○○樹脂系接着剤 | 固形量：○○(±●●)g/m以下 | 固形量：○○g/m  | ○○/○○/○○ |
| (10) | 目地用パテ | 〇〇〇〇系樹脂：固形量：○(±●●)g/m以下(目地長さ当り)組成(質量％)：　　〇〇〇系樹脂　　　　〇〇 タルク　　　 〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇 | 同左：固形量：50g/m(目地長さ当り)組成(質量％)：　〇〇〇系樹脂　　　　〇〇 タルク　　　 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇 | ○○/○○/○○ |

3.構造説明図

・申請仕様の構造が明確になるように透視図、断面図等を記載してください。

・表2,3の項目が全て特定できるように表現してください。

・申請仕様の構造が複数ある場合（あり・なし）は、全ての組み合わせについて、それぞれ図面を作成してください。

　　仕様の構造説明図を図1～図3に示す。



断面の厚さ寸法は記載不要です。



図面に記載される項目名と仕様表の項目名は、同じものとしてください。

図面に記載された材料がそれぞれ特定できるように、適宜指図してください。

CADで作図した図面は、鮮明な図で申請図書ファイルに張り付けてください。

図1　構造説明図



積層構成のルーフィング材などは、材料構成がわかるように、別途図面で説明して下さい。

図2　構造説明図

寸法表記がある場合には、記入してください。

単位：mm



図3　構造説明図

4.施工方法

デッキプレートは、断面の寸法を特定してください。

申請の仕様について、飛び火性能を担保する上で必要となる事項を明記してください。

申請仕様の施工手順について、支持部材の設置条件から仕上げまでの工程を含めてください。

 申請仕様の施工図を図3及び図4に示す。

 施工は以下の手順で行う。

1)支持部材

　たる木を支持部材に500mm以内の間隔で取り付ける。支持部材の傾斜角度は0°以上、30°以下とする。

2)野地板の取り付け

　　野地板は、〇〇留付材を〇〇間隔で〇〇に留め付ける。

・・・・・・・・・・

3)○○○フォーム板の張り付け

　　・・・・・・・・・・

4)○○○混入セメント板の張り付け

　　・・・・・・・・・・

5)○○○防水材の張り付け

　　・・・・・・・・・・

各構成材料の積層状況や、留め付け材やテープ等の副構成材料すべての設置状況がわかるように図で示してください。

適宜、複数の図で示してください。

図3　施工図

単位 mm

防水材の重ね幅がわかるように、図で示してください。

図4　施工図(〇〇〇防水層目地部断面)

《試験体割付図》 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位 mm



試験体の塗布量の算定資料

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 材料名 | 試験体の固形量 | 塗布面寸法及び面積 | 固形分率（質量比率） | 試験体塗布量(g/試験体) |
| (1)〇〇塗料 | 0.25kg/m2 | 1200×2000㎜、2.4m2 | 35％ | 1714g |
| (7)プライマー | 〇〇g/m2 | 1200×2000㎜、2.4m2 | 〇〇％ | 〇〇g |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

注）塗料や吹付剤などの材料は、試験体への塗布量の算定根拠を示してください。

(注意点)

**当該ページのご提出は不要です。**

〇申請図書の表記上の注意点

句読点は“、。”としてください。

表番号や節番号は半角で記載してください。

原則として左揃えで記載してください。但し、表題及び表中の列題は中央揃えで記載してください。

　物性値の単位はSI単位としてください。

　平方メートル等の記号は、全角文字「㎡」や「m2」とせず、半角文字で「m2」としてください。

○仕様の記載について

各項目ならびに仕様の記載は、申請される内容に基づいて記載してください。

　仕様は、次のタイプ1～4のいずれかの形式で記述してください。

|  |  |
| --- | --- |
| タイプ1 | 国土交通大臣の認定番号で材料を特定注）認定品の仕様に範囲がある場合は、その認定品のうち、防火上不利なものを試験体に選定する必要があります。 |
| タイプ2 | JIS番号で材料、材質を特定注）JIS番号だけでは材料が特定できない場合は評価できない場合があります。JISに規定する種類等まで特定が必要になる場合があります。 |
| タイプ3 | 日本農林規格で材料を特定 注）集成材などの接着剤を用いる材料の場合、使用部位により接着剤も選定の対象になることがあります。 |
| タイプ4 | 組成(質量％、又は配合比等)、材質で材料を特定注）組成に範囲がある場合、試験体は飛び火性能(燃え広がり、裏面への燃え抜け)上不利な配合の仕様を試験体にします。 |

○仕様の数値の表記について

以下の要領に従ってください(下記例示は単位をmmとしています。)。また、数字と単位の間にスペースは入れないでください。

　(a)仕様の数値が特定できる場合

○mm、○×○mm

　(b)仕様の数値が特定できるがばらつき(公差)を持つ場合

○(±●)mm、○(±●)×○(±●)mm

上記の場合、「〇」は基準値、「±●」は公差となります。

公差が基準値の1割以上を超える場合は、妥当性について確認が必要となる場合があります。

　(c)仕様がある範囲を持っている場合

○～○mm、○×○mm以上

〇材料調達の情報

試験体製作業者と打合せの上、各項目欄に材料の入手方法、仕様の証明方法を記入してください。

ウレタン系の材料は、ウレタン工業協会が定めるB票が必要となります。

○試験体図

試験体図は、担当者との協議のうえ、試験体の下地側から積層順に割付図を示してください。

各積層に、火種の設置位置を明記してください。

　火種の原則的な設置位置と寸法は、以下のとおりです。

　設置位置（中心位置）：下端から500㎜、左右中心から185㎜

　火種の大きさ：法第22条1項は40㎜×40㎜×40mm、法第63条は80㎜×80㎜×40mm

大臣認定の認定書写し

評価対象に不燃材料等の大臣認定品が含まれる場合、申請仕様に記載した認定番号に該当する認定書(別添を含む)の**写しを提出**してください。

また、次の目録をつけてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 認定番号 | 認定件名 | 根拠条文・性能 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

（参考資料）飛び火に関する法令（平成30年12月時点）

建築基準法

|  |
| --- |
| （屋根）第二十二条　特定行政庁が防火地域及び準防火地域以外の市街地について指定する区域内にある建築物の屋根の構造は、通常の火災を想定した火の粉による建築物の火災の発生を防止するために屋根に必要とされる性能に関して建築物の構造及び用途の区分に応じて政令で定める技術的基準に適合するもので、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものとしなければならない。ただし、茶室、あずまやその他これらに類する建築物又は延べ面積が十平方メートル以内の物置、納屋その他これらに類する建築物の屋根の延焼のおそれのある部分以外の部分については、この限りでない。２　特定行政庁は、前項の規定による指定をする場合においては、あらかじめ、都市計画区域内にある区域については都道府県都市計画審議会（市町村都市計画審議会が置かれている市町村の長たる特定行政庁が行う場合にあつては、当該市町村都市計画審議会。第五十一条を除き、以下同じ。）の意見を聴き、その他の区域については関係市町村の同意を得なければならない。（屋根）第六十三条　防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根の構造は、市街地における火災を想定した火の粉による建築物の火災の発生を防止するために屋根に必要とされる性能に関して建築物の構造及び用途の区分に応じて政令で定める技術的基準に適合するもので、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものとしなければならない。 |

建築基準法施行令

|  |
| --- |
| 第百九条の六　法第二十二条第一項の政令で定める技術的基準は、次の各号（不燃性の物品を保管する倉庫その他これに類するものとして国土交通大臣が定める用途に供する建築物又は建築物の部分で、通常の火災による火の粉が屋内に到達した場合に建築物の火災が発生するおそれのないものとして国土交通大臣が定めた構造方法を用いるものの屋根にあつては、第一号）に掲げるものとする。一　屋根が、通常の火災による火の粉により、防火上有害な発炎をしないものであること。二　屋根が、通常の火災による火の粉により、屋内に達する防火上有害な溶融、亀裂その他の損傷を生じないものであること。（防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根の性能に関する技術的基準）第百三十六条の二の二　法第六十三条の政令で定める技術的基準は、次の各号（不燃性の物品を保管する倉庫その他これに類するものとして国土交通大臣が定める用途に供する建築物又は建築物の部分で、市街地における通常の火災による火の粉が屋内に到達した場合に建築物の火災が発生するおそれのないものとして国土交通大臣が定めた構造方法を用いるものの屋根にあつては、第一号）に掲げるものとする。一　屋根が、市街地における通常の火災による火の粉により、防火上有害な発炎をしないものであること。二　屋根が、市街地における通常の火災による火の粉により、屋内に達する防火上有害な溶融、亀裂その他の損傷を生じないものであること。 |

建築基準法に基づく告示

|  |
| --- |
| 平成12年5月24日建設省告示第1361号（平成27年改正）特定行政庁が防火地域及び準防火地域以外の市街地について指定する区域内における屋根の構造方法を定める件　建築基準法（昭和25年法律第201号）第22条第1項の規定に基づき、特定行政庁が防火地域及び準防火地域以外の市街地について指定する区域内における屋根の構造方法を次のように定める。第一　建築基準法施行令（昭和25年政令第338号。以下「令」という。）第109条の6各号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、建築基準法第63条に規定する屋根の構造方法（令第136条の2の2各号に掲げる技術的基準に適合するものに限る。）とすることとする。第二　令第109条の6第一号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、建築基準法第63条に規定する屋根の構造方法とすることとする。平成12年5月25日建設省告示第1365号防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根の構造方法を定める件　建築基準法（昭和25年法律第201号）第63条の規定に基づき、防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根の構造方法を次のように定める。第一　建築基準法施行令（昭和25年政令第338号。以下「令」という。）第136条の2の2各号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、次に定めるものとする。一　不燃材料で造るか、又はふくこと。二　屋根を準耐火構造（屋外に面する部分を準不燃材料で造ったものに限る。）とすること。三　屋根を耐火構造（屋外に面する部分を準不燃材料で造ったもので、かつ、その勾配が水平面から30度以内のものに限る。）の屋外面に断熱材（ポリエチレンフォーム、ポリスチレンフォーム、硬質ポリウレタンフォームその他これらに類する材料を用いたもので、その厚さの合計が50ミリメートル以下のものに限る。）及び防水材（アスファルト防水工法、改質アスファルトシート防水工法、塩化ビニル樹脂系シート防水工法、ゴム系シート防水工法又は塗膜防水工法を用いたものに限る。）を張ったものとすること。第二　令第136条の2の2第一号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、第1に定めるもののほか、難燃材料で造るか、又はふくこととする。 |



